

平成23年3月31日

財団法人富山第一銀行奨学財団
理事長 金岡 純二 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名：富山大学	助成金額：700千円	
研究代表者：伏木宏彰	所属：附属病院	職位：講師
研究題目：富山めまい診療の地域連携・支援推進プロジェクト		

【研究概要】

本事業は、富山大学耳鼻咽喉科が開講以来取り組んでいる「難治性めまいや難聴疾患の精密診断と最先端治療」、「高度医療から地域医療への還元」、「地域に密着した医療」の理念を基に、めまいやふらつきで日常生活に支障を来している県民がひとりでも多く治るように、地域に密着したきめの細かい富山めまい診療体制を構築するためのプロジェクトである。富山第一銀行奨学財団研究助成を受け、私どもは県内耳鼻咽喉科医のめまい診療の実状を分析し、『縦断的な診療ネットワーク作り』に取り組んだ。

【成果要約】

1. 富山県内の耳鼻科医師の「めまい診療の現状」を把握し、2. 「知識の共有と診療所における診断技術の向上」、3. 「大学病院と総合病院・診療所との縦断的な連携」に取り組んだ。

1. ①日耳鼻・富山県地方部会に所属し、診療に携わる耳鼻科医師79名に郵送方式で質問紙調査を行った。回収率は82.3%であった。約半数の医師がめまい診療に対して苦手意識を有していた。特に診療所勤務の医師に苦手意識の割合が高かった。②耳鼻科医師は、比較的慢性めまいを診療する傾向であった。③前庭機能障害の検出率向上に不可欠なCCD赤外線カメラを有する医師は1割程度であった。④診療所で前庭機能低下を診断している医師は約4割で、診断ツールも限定的であった。⑤内耳性めまいのうち、疾患頻度が最も高い後半規管型良性発作性頭位性めまいの診断と治療は概ね行われていたが、水平型については診断も治療もあまり行われていないのが現状であった。

2. 診療所において患者や医師に負担の少ない前庭障害診断法として、負担の大きい温度刺激検査に代わる、頭振り眼振検査と新たにHead thrust testやバイブレータ誘発眼振検査を加えたミックス診断法を考案した。

3. 日耳鼻富山県地方部会・第56回学術講演会にて、アンケート集計結果を報告した。県内耳鼻科医師が簡易に行えるミックス前庭機能低下診断法について知識を共有した。バイブレータを用いた検査の意義や検査の実際に関する説明書を配布した。